

ちはやあかさか

議会だより 第66号



富田林市消防庁舎 を見学

(3 ページに関連記事)

	ページ
9月定例会のあらまし	2 ~ 3
いっぱん質問	4 ~ 7
やまびこ・研修レポート	8

9月定例会のあらまし

平成15年9月の千早赤阪村議会定例会（第3回）は9月9日に開会し、条例改正、補正予算、平成14年度決算、意見書など計17議案をそれぞれ可決・認定し、22日の一般質問をもって閉会しました。

決算

平成14年度一般会計

歳入35億8845万円
歳出35億3105万円

平成14年度の一般会計・各特別会計・水道事業会計の決算については、9月10日の本会議において審議を行い、全会一致または賛成多数でそれぞれ認定しました。

一般会計については、村税の減収、地方交付税の減額などにより、歳入歳出差引額は5740万円の黒字となりましたが、1億4800万円の積立金を取り崩して財政運営をしており、実質の単年度収支は赤字となっています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は103.5%となり、平成13年度から2年連続100%を超える結果となっており、困難な財政状況となっています。

経常収支比率とは

村税や地方交付税などの経常的な収入が人件費や公債費などの経常的経費にどの程度充当されているかを示す比率で、この数値が大きくなるほど住民ニーズに対応する余力がなくなり、一般的に町村では80%を超えると財政の弾力性が低下するといわれています。村では平成6年度以降9年連続で90%を超えています。

監査委員の選任

8月臨時会

任期満了に伴う監査委員に新田久治氏（二河原辺119番地）の再任に同意しました。

任期は平成19年8月19日までの4年間で。

平成14年度一般・特別会計決算

（単位：千円）

会計別	歳入	歳出	差引
一般会計	3,588,448	3,531,053	57,395
国民健康保険特別会計（事業助定）	553,712	519,463	34,249
国民健康保険特別会計（直営診療施設助定）	66,741	65,484	1,257
老人保健特別会計	715,984	711,275	4,709
介護保険特別会計	364,918	365,276	358
下水道事業特別会計	260,957	260,957	0
金剛山観光事業特別会計	265,874	293,921	28,047

平成14年度水道事業会計決算

（単位：千円）

区分	収入	支出	差引
収益的収支	158,716	154,458	4,258
資本的収支	30,581	64,911	34,330

教育費

幼稚園費（園児1人あたり）
849,429円
小学校費（児童1人あたり）
211,692円
中学校費（生徒1人あたり）
268,638円

生活関連費

ごみ処理費（1人あたり）
11,225円
し尿処理費（1人あたり）
3,987円

15年度一般会計

文化財保護土地購入を取りやめ
ロープウェイ・香楠荘関連費補正

9月9日の本会議に、平成15年度一般会計補正予算（第3回）が提案されました。その主なものは、人件費では9月末で退職する職員3名の退職手当9169万円を計上、内5700万円は退職手当積立金より繰入れをする。

文化財保護費・土地購入費3000万円が減額されました。これは、当初予算で計上されていたものですが、史跡整備計画が明確にされていない中で土地を先行取得することに議会から疑問が寄せられました。

積立金では平成14年度決算から財政調整基金へ3000万円、公施設整備基金へ200万円の積み立てなどです。

意見書

9月定例会では、次の意見書を全会一致で可決し、内閣総理大臣をはじめ関係行政庁に提出しました。

- 「金融アセスメント法」の制定を求める意見書
- 道路整備の推進及びその財源確保に関する意見書

第2次財政健全化

方策(素案)を審議

9月定例議会中の議員全員協議会で、村の財政危機をどう打開するかという第

2次財政健全化方策(素案・以下方策という)の説明が財政担当者からありました。

10月号の「広報・ちはやあかさか」にもその内容が掲載されています。

この方策は、平成15年度から19年度までの5年間の財政状況をシミュレーションし、この方策を実施した場合と実施しない場合とどう違つかという収支見通しを明らかにしています。実施した場合の、19年度の財源不足額は5億2000万円ですが、実施しない場合は13億6000万円と推計しています。

この方策のポイントの第1は財源をどう確保するか、第2は支出をどう減らすかとなっています。財政確保では、村税収入の確保で51000万円、受益者

(住民)負担を増やすことで12000万円が確保できると見込んでいます。

一方支出の削減では、人件費の抑制で3億1600万円、公共施設の経費の削減で8200万円、事務事業の見直し(住民サービス削減)で1億7200万円、団体などへの補助金の削減で3200万円等々、多岐にわたっています。

とくに支出の大きな部分を占める人件費では、今後定年退職の職員が増えますが、補充しなければ現在の123人の職員を平成19年には104人、23年には90人になると推計しています。

いずれにせよ、今回出された素案は、当然削るべきものもたくさんあります。削ってはならないものもあり、住民はもとより行政も議会も知恵を出し、工夫をして、慎重かつ十分な検討が必要だと思っています。

施設見学

見学のお問い合わせ

富田市内防災センター 25 - 7401

南河内清掃施設組合 企画調整課 33 - 6584

富田林市消防本部

9月19日、議会議員で、富田林市の新しい消防庁舎を見学しました。総工費約24億円をかけ、平成13年度から工事がはじまり今年7月に完成しました。千早赤阪村や太子町も消防業務を委託しているため、建設費の一部を負担しています。

地下1階から地上7階まであり、4階までは消防業

務に関連する施設になっていて、最先端の技術・装置が設置されています。

3階の通信司令室には、「発信地表示装置」があり、火災や救急時に、発生場所を伝えられない場合でも、かけられた電話によって発信地が分かるようになって

ツチできます。

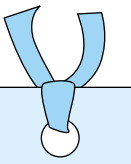
5階の「みなみ大阪トライアルプラザ」(防災センター)は無料で、防災に関する知識と瞬時の行動力を体験できます。地震と火災の疑似体験や煙避難・強風避難・消火・応急救護などが体験できます。

南河内清掃施設組合 第2清掃工場

地域から集められてくる一般廃棄物を迅速かつ安全に処理するため、3市3町1村で南河内清掃施設組合が設立され、本組合には第1清掃工場(富田林市)と第2清掃工場(河内長野市)があり、今回は第2工場へ。工場の特長として、環境保全対策は、「排出ガス」・「排水」・「防臭」・「防音」等の保全に万全を期しており、特に排水は、すべて工場内で再利用している。余熱の有効利用は、

ごみの燃焼に伴う熱で、工場内の給湯・暖房を行っている。自動・省力化のため最新技術を導入し今では日本一の施設である。そこでごみ処理の流れですが、「燃えるごみ」は焼却処理で「灰」に、「粗大ごみ」は、再資源化するために選別し、処理された灰・プラスチック・不燃物は溶融処理され、できたスラグは道路舗装の資材として村でも利用されています。





いっぱん質問

北野恒治 議員

児童生徒の非行防止策は

問 最近国内において児童生徒の重大事件が相次いで発生し、全国民に衝撃を与えている。これらの事件は家庭での教育問題がクローズアップされようとしている。最近の子どもは非行を他人のせいにして反省することもなく利己主義に走る傾向が見られるともいわれている。また親の過保護や溺愛等で我慢を身につけることもなく、他人との係わり合いを自己愛的にしか築くことのできない子どもが増加しており、最近の事件の原因は家庭環境にもあるとの指摘がされている。

答 教育長は、「いま子どもの心に何が起きている」とお考えなのか、また家庭での子どもの教育に学校はどのように係わっていくべきか伺う。



運動会風景（赤阪小学校）

問 今日の子どもたちを見ると社会の流れに柔軟に対応できる力を備えていて、自ら意欲的に取り組むなど積極性や長所が認められる子どもたちも決して少なくない。

答 豊かな人間の基礎を育む時期である幼児期から義務教育期において、さまざまな体験のなかでなお一層

学校・家庭・地域社会の三者が緊密な連携のもとで、子どもの教育にあたる。

要望 現在の親の関心が学校教育のみに集中しているが子どもの成長の基盤である家庭教育のもつべき役割を重要視し、村の21世紀を担う児童生徒の健全教育を図られたい。

府道沿いの「違法広告物除去権限」の委譲を

問 本村は昨年より「全村一斉大掃除」を実施している。その成果として、大量のゴミが集められた。しかしこのゴミは「不法投棄」されたゴミであり「違法広告物」は含まれていない。

答 村内の府道沿いのガードレールやフェンスには「違法広告物」が見受けられる。大阪府より「除去権限の委譲」を受けると「違法広告物」の撤去が可能になり、村の美化に一層の効果が上がる。

問 大阪府からも協力の要請がきている。村内美化の効果も上がるので、前向きに検討する。

「プラスチック容器包装」の分別収集が本年4月より実施された。

問 現在までの収集の実績はどの程度か。

答 8月までの実績は9.4トンと当初の年間見込量に達している。

問 「プラスチック類」の収集は月1回のため、保管がかさばるので「収集回数



を増やして欲しい」との意見がある。収集回数を増やす検討をしては。

答 本事業が始まってまだ半年であり、保管についての悩みを持っている家庭のあることは承知しているが、保管方法に工夫をして、月1回の収集でお願いしたい。

が

9月議会では、7人の議員が一般質問を行いました。内容（500字以内）は、質問した議員の責任で作成したものです。

清井 浩 議員

「プラスチックリサイクル事業」の経過は

計画の「近隣公園」は 村にふさわしいものを 府医療助成制度 の継続要望を

問 近隣公園設置プランは
予定地の周辺施設と連繫
し農業祭などに使えるイベ
ント広場を、「一冊の絵本
のような村」が体現でき、
村を訪れた方も憩える特色
のある公園への計画を。

答 「都市計画審議会」で
の意見もいれ、整備計画を
作成中で、テーマは公園の
形態や利用度が重要です。
特色のあるものになるよう
審議会に諮っていく。

問 府は65歳〜69歳の老人
医療助成の大枠廃止や母
子・乳幼児は対象年齢など
拡大の一方、障害者・特定
疾患と共に一医療機関1日
500円、月2日までの自
己負担導入を来年11月から
実施予定です。影響などは、
答 府各種医療助成は、順
次拡大してきましたが、国
の医療制度改正や財政状況
から継続が困難と示された
のが再構築案です。現段階
で影響は明らかでない。
要望 老人医療助成の大半
が対象外、継続の要望を。

「分校跡地」開放へ 「協働」の立場で

問 「分校跡地」をグラン
ドゴルフ場にとの声があり
ます。以前に開放を質問し
ましたが可能では。

答 中山間地整備事業完了
は19年度内であり、現在の
グランドゴルフ場の利用に
余裕もあり、老人クラブの
方も理解頂いている現状で
す。

要望 整地や管理に協力し
ても良いとの声を大切に
「協働」の立場で関係者と
協議すべきです。



分校跡地の開放を

小学校統合はいつ？

問 赤阪、千早、小吹台、
多聞4小学校を統合すべ
し、との答申が昨年出た。
以来統合に関する報告、
説明は無かったが、9月19
日に提出された「千早赤阪
村第2次財政健全化方策」
の素案で、小学校の統合は
凍結された。

答 申が出て一年足らず、
突然の方針変更には私もち
ろんPTA、学校関係者も
おどろくでしょう。

小学校新設に20億円必要
というのが定説だ。
審議会招集にあたって、
資金のめどは立っていたは
ず。

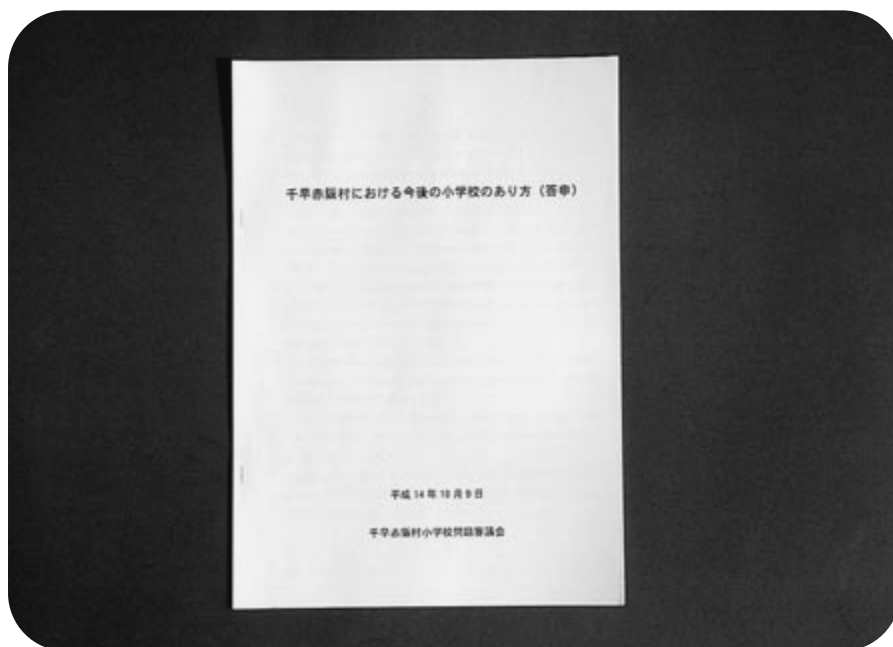
なぜ凍結か？
統合は？

答 村の財政が逼迫してい
る今、凍結はやむを得ない。
しかし統合については、プ
ロジェクトで検討してい
る。

問 長時間ついやして答申
を作成した審議会委員に対
しどう責任を取るのか。

答 答申は答申として尊重
しなければならぬ。

問 多聞小学校は平成17年
に児童数が20名を割る。千
早地区は、児童数確保の空
家留学制度を廃止した。多
聞小学校はどうするのか。
答 多聞も含め全体を考え
なければならぬ。
要望 小学校統合は、合併
特別債を当てにせず自主財
源で。



合併協議会の方針転換が あれば解散を

〔問〕合併協議会は「富田市長・市議選」を理由に休止されている。これまでの運営に問題はなかったか。富田林市特別委員会で、「吸収合併」という話が出ている。重大な方針転換で、協議会を根底から変更する大問題だ。「対等合併」の方針に変わりはないか。

〔答〕一部に、充分な議論が



「くすのき号」の 小型化で運行 コースの充実を

できない、協議期間が短い等の意見があり、合併期日がいったん取り下げられた。「対等、新設合併」が承認されているが、編入合併という話が出たら、議会、協議会委員等と協議し、判断していく。

〔要望〕重大な方針転換がすすめられる以上、合併協議会は解散を提案すべきだ。

〔問〕「くすのき号」は、村内巡回と住民健診や村の行事に、また通学通園バスと併用し効率よく運行する努力をし、10年が経過した。利用者が少なくさまさまな意見が出ている。運行コースや日数、小型化など住民のニーズにあった改善を。

〔答〕金剛バスに委託しているものを直営にする。小型化も含め検討する。

ガン検診に 前立腺ガンの 追加を

〔問〕成人病健診・ガン検診は健康管理、病氣予防のために成果をあげている。男性に多い前立腺ガンの検診も加えて充実してほしい。

〔答〕血液検査でできるが、

厚生労働省の報告で効果未証明とされており、今後検討課題として考えていく。

小・中一貫教育の推進は

〔問〕完全学校週5日制の実施により、保護者・村民の中に学力の低下に不安がある。特に、小学校から中学校へ進学する段階で、学校生活への満足感や授業の理解度が低下する傾向や、中学1年生の不登校が増加している実態が指摘されている。このような状況の中で6・3制の枠組みにおいて、学校の段差を解消し、心身の発達に応じた「小・中一貫教育」が効果的と考えますが。

〔答〕社会環境が大きく変化する中、生活や意識の面では自立が遅れ、個人差が広がる傾向にあります。したがって「6・3制」の枠組みの中で、子どもの心身の発達状況と合致しない面も生じております。また小学校から中学校の対応が異なったり、担任制が教科担任制になり指導方法が変化するなど、小・中学校間の段差が、一部の子どもに「ス



文化財を活か した村づくり

トレス・学校生活の満足感・授業の理解度・不登校の増加等」を招く要因と指摘される中、今後、小・中学校間の円滑な接続・連携を効果的にすすめることは有効な方途の一つであると考えます。

〔問〕具体的な施策は。

〔答〕文化財見学会・講演会等を行っており、村内外の方々に歴史・史跡を紹介し、小中学校における総合的な学習や郷土を愛する心を育てる体験学習を行っています。

都市計画の見直しを！

員 長 徹 議 員

〔問〕 現在の村の現状は都市計画指
定の要件に達していない
が、平成17年度の府の一斉
見直しに対する村の考え
は。

〔答〕 現在の村の状況を府に
申し上げ、村の方向を協議
したい。

〔問〕 平成14年に作成した第
二次都市計画マスタープラ
ンの市街化基本方針は、地
区計画によるとなっている
が、この方針は無理がある。
基本計画を見直すべきだ。

〔答〕 国道309号バイパス
沿道については交通の利便
性が良くなる。村の玄関口
として位置づけ、地権者の
同意を得て農振農用地の見
直しを都市計画線引き見直
しと一体的に行い、計画的
面整備手法で地区計画を行
う。

〔問〕 現在の都市計画基本方
針、農振整備計画ではその
ような手法は無理。計画の
変更が必要である。
〔答〕 いろいろと検討させて

ほしい。

〔問〕 10年間で、920人も
人口が減少している。下水
道以外都市計画の成果は。

〔答〕 諸般の事情もあつて成
果としては表れていない。

〔問〕 緑の基本計画は目標ど
おり達成できるのか。

〔答〕 今後の社会状況を見な

がら順次計画的にすすめ
る。

〔要望〕 村長、助役は国や府
に対して村の意見・実情を
訴えてほしい。都市計画の
専門職を育成すべきだ。

地区計画には手法がいろい
ろある。検討してほしい。



現在工事中の国道309号河南赤阪バイパス

常任委員会合同研修報告

三重県川越町

町営診療所と

保健福祉施設「川越いきいきセンター」

本村の診療所は、年々患
者数が減少し、経営が悪化
しています。

そこで、町営診療所とし
て、健全経営を維持してい
る三重県川越町の「川越い
きいきセンター」を視察し
ました。

川越町は伊勢湾に臨む面
積8.7km²、人口1万2000
人で、財政の豊かな町です。
同町は平成5年に、町民
に一貫性のある保健・医
療・福祉サービスを提供す
る「いきいきセンター」を
設置しました。

医療を受け持つ診療所に
は、6つの診療科目があり
ます。年間の外来患者数は
(14年度) 1万6700人
あり、同町の人口との割合
を本村と比較すると、
川越町(患者/人口)
1万6700/1万2000



0 = 14千早赤阪村(患者/
人口)4900/6900 =

0.7となり、本村と比較して
2倍の利用者があります。

その結果、診療所の会計
はほぼ診療収入で賄われて
おり、繰入金は5%に過ぎ
ません。ちなみに本村では
会計の1/2を繰入金に頼

っています。

患者数が多いのは、診療
科目が多いことや、保健・
福祉と連携して経営してい
ることもありますが、まず
は住民から信頼される医療
が行われているから、との
説明でした。本村にもその
努力が望まれます。

やまびこ

村内で活躍されている皆さん
をご紹介するコーナーです。

村に二つ目の

「いきいきサロンくすのき」誕生!!

管理人一同

高齢者の生きがい活動や世代間交流の拠点となる二つ目のいきいきサロンが誕生。一見レストランと見間違える木造平屋のモダンな建物がくすのきホール東側に4月1日オープンして早や半年が経ちました。その間7000人を超える入館者がありました。

現在44団体が活動中で、その内訳は陶芸、大正琴、カラオケ、パソコン、舞踊、手芸、ロー花、俳句、ヨガ、書道、俳画、着付等、中でもカラオケが一番人気です。

健康器具ヘルストロンも日に日に利用者が増えてきました。外の景色を眺めたり読書やお喋りやテレビを楽しくおられます。

ボランティアによる喫茶



コーナーも7月6日に開店、日水の週3回です。ご利用下さい。ラウンジより周囲一面硝子張りの窓から見る金剛山や周辺の景色は最高です。ご近所の方やお友達とお茶をいただき、お喋りする憩いの場として使われては如何でしょうか。

まだ「いきいきサロンくすのき」にお越さない方は是非お立ち寄り下さい。

より多くの方がご利用されますようお願いいたします。

休館日は月曜日。但し、祝日の時は火曜日が休館日。
電話 72 1705

研修レポート

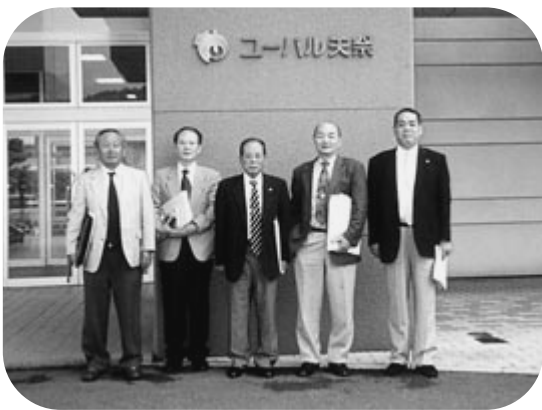
矢祭町を視察

山形 研介・北野 恒治
貝長 徹・松本 昌親・清井 浩

矢祭町と本村とは財政規模・人口・立地がほぼ同じで「合併をしない宣言」を全会一致で決議した経緯について研修を行いました。

町づくりについて町長は爪に火をともしような節約をしたことによつてインフラ整備はほぼ終り、合併しなくても自立できる。そして町の歴史として、昭和の大合併で大変つらい思いをし、そのしこりが今ものこり、同じ轍は踏みたくない。

将来ビジョンはハード面の整備が終り、あとは創意工夫によるソフト面の充実を図るのみで、お金はいらない。機構改革は、町長部局



の課を4課に削減し、あらたに「自立推進課」を設置した。議会においても定員18名を10名に削減する議決をされた。

本村も合併の是非について村民にとって良き選択であることを願い、報告とします。

編集後記

彼岸花も咲き誇り、美しい田園風景を醸しだしています。今年の米作は全国的に不作といわれていますが本村では「まずまず」と聞きホッとしています。

自民党総裁選挙は小泉氏が圧勝しました。その時のインタビューで小泉氏は「私は歴史小説を読むのが好きです。特に、信長・秀吉・家康の権力闘争は勉強になる」といわれていました。権力への執着も結構だが、その三人の英雄の心の中にあつたのは、自分が天下人となり、戦国の世を治め争いのない平和な国をつくらうと考えていたのではないのでしょうか。家康は特にその気持が強かったように読み取れます。小泉内閣が私達庶民の痛みを我が痛みととらえて、頑張っていたのだと思います。

この議会だよりが皆様のお手元に届くころは、総選挙一色でしょう。

H・M